

# 第3次札幌市生涯学習推進構想 (令和元年度実施報告)

## はじめに

札幌市においては、時代の変化等に対応した生涯学習推進の基本的な考え方と方向性を整理し、関連する施策を総合的・計画的・体系的に進めていくことを目的として、平成29年（2017年）3月に第3次札幌市生涯学習推進構想を策定しました。

本計画では、実施状況について、内部委員会である「札幌市生涯学習総合推進本部」が把握し、構想の推進に必要な事項の検討調整を行うとともに、毎年度ホームページ等で適宜公表することとしています。

### 施策体系

基本施策		施策の方向性		施策の展開	
基本 施策 Ⅰ	学びを生かして 未来を創造する 人づくり	1	各世代のニーズに応じた 学びの推進	1	乳幼児期からの育ちを支える学びの充実
				2	青少年期を育む学びの充実
				3	成人期の多様なニーズに対応するための学びの充実
				4	高齢期を豊かに過ごす学びの充実
		2	多様な学習機会の提供	5	現代的・社会的な課題に対応した学習機会の充実
				6	スポーツ・健康に関する学びの充実
				7	文化芸術に関する学びの充実
				8	ふるさと札幌に関する学びの充実
				9	就労へ向けた学びの充実
				10	まちの活力を高める学びの推進
3	社会で活躍できる力を 育む学びの推進	11	学習成果の発表や学びをきっかけにした交流の場の充実		
		12	地域と学校が連携する取組の推進		
基本 施策 Ⅱ	学びで育む つながりづくり	4	多世代が関わる学びを 通じた絆づくりの推進	13	地域づくりに向けた学びの推進
				14	学んだ成果を地域で生かす取組の充実
		5	学びを地域づくりに生かす 取組の推進	15	学び直しなどを支える環境づくり
				16	全ての人に開かれた学びの環境づくり
基本 施策 Ⅲ	学びを支える 環境づくり	6	いつでも学べる環境づくり	17	情報提供・学習相談体制の充実
				18	学びを支える人材の発掘・紹介、出前講座の展開
				19	学びをコーディネートする人材の育成・活用
				20	身近な地域で学びを深められる環境の整備
		7	まちのどこでも学べる 環境づくり	21	時代の変化に対応した生涯学習関連施設の運営、機能強化
				22	多様な主体が連携した学びの場づくり

### 基本施策ごとの実施状況

今回の実施報告では、これまでに調査した関連事業を中心に、令和元年度の実施結果と、今後の取組の方向性を取りまとめました（事業総数 229 事業（再掲有））。基本施策及び施策の方向性ごとに実施状況を総括し、それぞれ関連する事業例を取り上げています。

## 基本施策Ⅰ 学びを生かして未来を創造する人づくり

少子高齢化や情報化・グローバル化の進展といった社会情勢の変化に伴い、多様化・複雑化する課題を解決していく力を養っていくことが求められている。

基本施策Ⅰにおいては、個人の自立と共生に向けた多様な学びの機会の提供をさらに進めるとともに、学んだ成果を生かし、主体的に社会に参画し、活躍できるよう支援するため、関連事業として計160事業（再掲含）を実施した。特に、重点施策「施策の展開10 まちの活力を高める学びの推進」の主要事業であるさっぽろ市民カレッジを中心に、それぞれのライフスタイルや関心事に合わせた市民の主体的な学習活動の推進に取り組んだ。

### 施策の方向性1 各世代のニーズに応じた学びの推進

#### 【今年度の取組結果】

子育てに対する悩みを抱えている市民に対し、親同士が交流する機会の提供や、家庭教育の重要性に関する講演会を実施した。また、青少年期の若者に対する食育講座や、実際に調理をした成果を発表する場を提供することにより、食に関する知識の普及や意識の啓発を行ったほか、若年層の早期離職の防止や職場定着の支援、高齢者向けの健康教育など、各世代の市民が、年齢やそれぞれのライフスタイルに応じて学べる機会を提供した。

#### 【今後に向けて】

世代や地域の特性を踏まえながら、引き続き市民ニーズに即した事業を展開していくとともに、効果的な広報を実施するなど、より多くの市民に学習機会を提供できるよう努めていく必要がある。

### 施策の展開

#### 1 乳幼児期からの育ちを支える学びの充実

14 事業

##### 〔事業例〕 家庭教育事業

家庭における教育力向上のため、子どもの心や体の理解・親の役割などについて親等が自主学習する場として、幼稚園、小・中学校で家庭教育学級を開設し、3,727人の学級生が参加。子育てに対する悩みを抱える市民に対して、親同士が交流する機会を提供した。

また、家庭教育の重要性について意識啓発を図るため、親育ち応援団講演会を開催し、1,560人が参加したほか、企業に対する出前講座や、ウェブサイト「さっぽろ家庭教育ナビ」による情報発信を行い、子育てに関する学びの機会を充実させた。

## 2 青少年期を育む学びの充実 25 事業

### 〔事業例〕食育推進事業

食習慣の改善を目的に各区の若い世代を対象とした本気めしプロジェクトを実施し、管理栄養士による講話や調理実習を中心とした食育講座を22回開催した。

また、生活習慣病を予防するため、食事の適切な量や栄養バランスを把握し、実践力を育むことを目的に、札幌市お弁当プロジェクトを実施した。中・高校生の部では、前年度を大幅に上回る693作品の応募があり、若い世代が食に関する知識を深めるための機会を充実させた。

## 3 成人期の多様なニーズに対応するための学びの充実 11 事業

### 〔事業例〕若年層職業定着支援事業

若年層の早期離職を防止し、職場定着を支援するため、就職から3年以内の若手社員や人事・人材育成担当者等を対象とした講演会や研修を実施し、合計239人が参加した。人材育成に関するノウハウや関係団体とのつながりを持つ民間事業者と連携し、若者が抱える課題を解決するための学びの場を提供した。

## 4 高齢期を豊かに過ごす学びの充実 14 事業

### 〔事業例〕健康教育事業

生活習慣病の予防など健康に関する正しい知識の普及を図ることにより、自分の健康は自分で守るという意識を高め、健康の保持増進に取り組むための講演会やイベントなどを実施し、延べ38,581人が参加した。多くの市民に対し、健康づくりに関する学習機会を提供した。

## 施策の方向性 2 多様な学習機会の提供

### 【今年度の取組結果】

社会状況の変化に伴い、多様化・複雑化する課題に対応するために、様々な学習機会を提供した。リサイクルプラザでは、ごみの減量につながるリデュース・リユースを推進する講座を実施した。また、ラグビーワールドカップ2019

においては、多くの市民が世界トップレベルのスポーツに触れられる機会を創出したほか、札幌市民交流プラザにおいては、市民が多様な文化芸術に親しめる機会を充実し、定山溪自然の村においては、自然環境を活用した学びの機会を提供した。

### 【今後に向けて】

引き続き、多くの市民が主体的に参加できるような学習機会を拡充していくとともに、スポーツや文化・芸術など、生涯学習の入り口となるような、親しみやすい分野の学びを充実させていく必要がある。

## 施策の展開

### 5 現代的・社会的な課題に対応した学習機会の充実

19 事業

#### 〔事業例〕 リサイクルプラザ・リユースプラザ運営

リサイクルプラザ宮の沢およびリユースプラザにおいて、市民が廃棄物の減量や資源の有効活用に関する理解を深め、自主的に活動することにより、家庭から出る廃棄ごみを減量することを目的とした各種教室や講座等を開催し、19,793人が受講した。

### 6 スポーツ・健康に関する学びの充実

24 事業

#### 〔事業例〕 ラグビーワールドカップ 2019 大会開催準備

スポーツを観る文化の醸成や都市ブランドの価値を高め、今後の様々なスポーツイベントの誘致・開催につなげることを目的に、ラグビーワールドカップ 2019 を開催した。併せて、市内全小学校（199校）、児童会館及びミニ児童会館（72か所）にタグラグビー用具を配布したほか、市内9か所でパブリックビューイングを実施し、延べ31,137人が参加した。多くの市民が世界トップレベルのスポーツに触れられる機会を創出した。

### 7 文化芸術に関する学びの充実

20 事業

#### 〔事業例〕 札幌文化芸術劇場・札幌文化芸術交流センター運営事業

市内における多様な文化芸術活動の拠点としての機能と、多くの人が交流する場としての機能を合わせ持つ札幌市民交流プラザにおいて、オープン初年度をさらに上回る1,332,189人が来館。市民が多様な文化芸術に触れる機会を提供した。

## 8 ふるさと札幌に関する学びの充実 10 事業

### 〔事業例〕 定山溪自然の村運営

定山溪の豊かな自然環境の中で、幅広い年齢層の市民が利用できる野外教育施設を運営し、22,948人が利用。家族や小グループを中心に、多くの市民に自然体験活動の機会と場を設けることで、互いに支え合い、学び合う機会を提供した。

## 施策の方向性3 社会で活躍できる力を育む学びの推進

### 【今年度の取組結果】

市民が主体的に社会に参加し、活躍することができるような学びを推進するため、正社員での就労を目指す若者を対象に座学研修や職場実習を通じて企業との出会いの場を提供するなど、市民が持てる能力を最大限発揮できるような機会の充実に取り組んだ。

また、重点施策であるまちの活力を高める学びの推進として、さっぽろ市民カレッジ等の各種事業を実施した。受講者に身近なテーマを扱い、終了後には活動のイメージを広げられるような講座にすることで、社会の様々な分野での活躍につながるような学習機会を多数提供した。

### 【今後に向けて】

引き続き、社会の変容に応じた講座内容や支援メニューを充実させていくほか、学んだ成果を生かせるよう、さらなる気運の醸成や活躍の場の充実に取り組んでいく必要がある。

## 施策の展開

## 9 就労へ向けた学びの充実 11 事業

### 〔事業例〕 若年求職者に対する就職支援制度

市内で正社員就職を目指す若年求職者や非正規社員に対し、市内企業への正社員としての就職や転換を支援するため、座学研修を開催し134人が参加したほか、職場実習を通じて市内企業との出会いの場を構築し、102人が正社員として就労した。

## 10 まちの活力を高める学びの推進 【重点施策】 12 事業

### 〔事業例〕 さっぽろ市民カレッジ

ボランティアや市民活動、まちづくり等に関して学ぶ「市民活動系」の講座を計 42 講座実施した。

例えば、減災やSDGs、高齢者運転など受講者に身近なテーマを扱い、受講者が講座修了後の活動のイメージを持つことができる点を重視して、市民活動の入口を広げる講座を実施した。

また、職業能力の向上や産業育成、活性化を促進する「産業・ビジネス系」の講座についても、計 35 講座実施した。

例えば、小売業やインバウンドに焦点をあてた「アジア圏客が喜ぶブランディング」や「良いものの見極めと仕入れ」、SDGsにも関わる「食品ロスとフードバンク活動」、働いている人が受講しやすい環境を意識し、市民交流プラザを会場にした「マインドフルネス」などの講座を実施した。

## 基本施策Ⅱ 学びで育むつながりづくり

人口減少時代を迎え、様々な問題に直面する中で、近年、人と人とのつながりの重要性が再認識されており、市民一人ひとりがお互いを尊重できる地域づくりが求められている。

基本施策Ⅱにおいては、様々な場における多様な人々との学びや成果を生かす取組を通じて、社会との関わりや新たなつながりを見出し、地域をはじめとする様々な場においてコミュニティを築いていくために、関連事業として計 28 事業（再掲含）を実施した。特に、重点施策である「施策の展開 12 地域と学校が連携する取組の推進」を中心に、地域における学びを通じたコミュニティの醸成に取り組んだ。

### 施策の方向性 4 多世代が関わる学びを通じた絆づくりの推進

#### 【今年度の取組結果】

市内の生涯学習施設において、人々が集まって共に学び、学習成果を発表する機会を設けることで、人と人とのつながりづくりに寄与する学び合いの場の充実に取り組んだ。

また、重点施策である地域と学校が連携する取組の推進として、サッポロサタデースクール事業等の実施を通じ、地域住民が多様な経験や技能を生かして子どもの学習に関わることにより、子どもの教育環境を豊かにするとともに、学びをきっかけにした人と人とのつながりづくりに取り組んだ。

#### 【今後に向けて】

引き続き、人と人とのつながりづくりをより一層進めるために、生涯学習関連施設同士の連携の強化や、世代間交流の場づくりの充実に向けて取り組んでいく必要がある。また、事業に関わる担い手不足の解消についても取り組む必要がある。

## 施策の展開

### 11 学習成果の発表や学びをきっかけにした交流の場の充実 7 事業

#### 〔事業例〕 月寒公民館運営

豊かな地域社会づくりの場として月寒公民館を運営し、65歳以上を参加対象とした高齢者教室や、公民館講座などの各種事業を実施した。95,416人の利用があり、グループやサークル活動の拠点として多くの市民に交流の場を提供した。

### 12 地域と学校が連携する取組の推進 **【重点施策】** 7 事業

#### 〔事業例〕 サッポロサタデースクール事業

地域全体で子どもを育む意識の向上や環境づくりを図ることを目的に、市内47の小・中学校及び特別支援学校で、地域の多様な経験や技術を持つ人材・企業等の豊かな社会資源を活用したプログラムを304回実施し、延べ15,913人の児童生徒が参加した。

例えば、「冬のつどい（雪中運動会）」として、地域の町内会等の協力のもと、パン食い競争や雪中リレーなど雪上の運動競技を実施し、地域の人々が参加できる事業を通じて、世代間交流の場づくりを行った。

## 施策の方向性5 学びを地域づくりに生かす取組の推進

### 【今年度の取組結果】

町内会や商店街といった地域に関わる団体や組織との連携・支援を通じて、それぞれの強みを生かし、複雑化・多様化する課題解決のための学びの機会の充実に取り組んだ。

また、ジュニアリーダー養成研修やさっぽろ市民カレッジなどの学んだ成果を生かす機会を提供することで、市民の主体的な社会参画の意識を醸成し、市民が主役の活力あるまちづくりの促進に取り組んだ。

### 【今後に向けて】



複雑化・多様化する課題を的確に把握し、地域に関わる団体や組織がそれぞれの強みを生かして連携できるような支援を行う必要がある。

また、学んだ成果を生かして活躍できる機会について、社会情勢、市民ニーズを把握してプログラムの検討を行うとともに、関係団体などとの連携強化等の手法で拡充していく必要がある。

## 施策の展開

### 13 地域づくりに向けた学びの推進

8 事業

#### 〔事業例〕 地域商店街支援事業

地域住民の生活を支える商店街の活性化を通じた良好な地域コミュニティの維持や地域経済の発展を目的に、地域と連携したイベント等を実施。夏祭り等のイベントを45件、少子・高齢化、安心・安全等地域課題の解決につながる取組を9件実施し、にぎわいづくりや地域貢献に取り組んだ。

### 14 学んだ成果を地域で生かす取組の推進

6 事業

#### 〔事業例〕 少年団体活動促進

市内の小・中学生や高校生を対象とした体験活動機会として、ジュニアリーダー養成研修を45回実施し、延べ2,056人が参加した。体験活動や異年齢交流を通じて、子どもの自主的な社会参加や連携意識の向上、青少年活動を担う人材の育成、少年団体の活性化に取り組んだ。

## 基本施策Ⅲ 学びを支える環境づくり

様々な理由から学習することに壁を感じていたり、学ぶことに無関心であったりする市民にとっても、生涯学習に関わるきっかけが得られるよう、市民の誰もが学べる環境を整えていくことが求められている。

基本施策Ⅲにおいては、市民がいつでも・どこでも自由に学んだり、活動したりすることのできる環境づくりを進めるために、関連事業として計41事業（再掲含）を実施した。特に重点施策である「施策の展開 20 身近な地域で学びを深められる環境の整備」を中心に、身近な地域における学習の場や、学習相談等の支援体制の充実に取り組んだ。

## 施策の方向性 6 いつでも学べる環境づくり

## 【今年度の取組結果】

復職・転職などの再チャレンジやスキルアップを希望する市民への学習機会の提供や、仕事をしている人や子育て中の人など、それぞれの置かれている立場や環境に対応するワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んだ。

また、「学びたい」という希望に応じて学習機会を提供できる人材登録・紹介制度や出前講座などの取組を進めることで、市民の主体的な学びの支援の強化に取り組んだ。

## 【今後に向けて】

ライフスタイルの多様化や急速な ICT 機器の普及といった社会情勢の変化に伴い、市民が望む学習機会の在り方や、情報の受け取り方が多様化しているため、引き続き、市民のニーズに即した効果的な情報発信の方法を検討するなど、学びを支える環境づくりを一層推進する必要がある。

## 施策の展開

### 15 学び直しなどを支える環境づくり 4 事業

#### 〔事業例〕 看護職復職支援講座

保健師や助産師、看護師、准看護師等の復職を目指している看護職を対象に、看護現場の現状や復職への取り組み方などを学ぶ講習会を開催し、61人が参加。再チャレンジを希望する市民の学び直しのニーズに対応する学習機会を提供した。

### 16 全ての人に開かれた学びの環境づくり 4 事業

#### 〔事業例〕 仕事と暮らしのライフプラン支援事業

札幌の未来を担う若者たちが、仕事と生活の調和したライフプランを実現できるように、セミナーを開催し1,585人が参加したほか、ウェブサイトを通じて、若者世代向けにワーク・ライフ・バランスの推進に関する情報を積極的に発信した。

また、育児休業を取得しやすい環境づくりを支援するため、一定の要件を満たした企業に対して助成金を支給し、仕事と子育ての両立を目指すワーク・ライフ・バランスを推進した。

### 17 情報提供・学習相談体制の充実 7 事業

#### 〔事業例〕 生涯学習センターにおける学習相談コーナーの運営

市民が学習するきっかけとして様々な情報に触れるため、生涯学習センターでは市民の多様な学習ニーズに応える学習相談コーナーを運営し、ちえりあ市民講師バンクに登録している講師やサークル活動を紹介するなど、市民の学習活動に役立つ情報を発信した。講師バンクの登録者数は261名、市民の学習ニーズとのマッチング件数は24件となった。

## 18 学びを支える人材の発掘・紹介、出前講座の展開

7事業

### 〔事業例〕消費者被害防止ネットワーク事業

高齢者や障がい者の消費者トラブルの早期発見や救済のために、地域でミニ講座を開催し、2,074人が受講した。高齢・障がい福祉機関や民生委員、町内会等の地域で活動する団体と連携して行う消費者問題の解決に向けた取組を推進した。

## 施策の方向性7 まちのどこでも学べる環境づくり

### 【今年度の取組結果】

市民自らが学びの場をコーディネートし学びを深められるよう、さっぽろ市民カレッジ等において、学びの場をコーディネートする人材の育成に取り組んだほか、多様な主体との連携による事業内容の充実を図った。

また、図書・情報館やオリンピックミュージアムなどの施設においては、市民が身近な地域で学びを深められる環境づくりや、専門性を生かした事業に取り組んだ。

### 【今後に向けて】

引き続き、生涯学習センターが中核となり、図書館やコミュニティ施設等の生涯学習関連施設同士の連携を強化するとともに、市内各部局等の関係機関との連携により、身近な地域で学びを深められる環境を充実させることで、市民一人一人のニーズに合わせて、どこでも学べる環境づくりに取り組んでいく必要がある。

## 施策の展開

## 19 学びをコーディネートする人材の育成・活用

2事業

### 〔事業例〕さっぽろ市民カレッジ（ちえりあ学習ボランティア）

札幌市民カレッジの一環として、自身の経験や学習成果を生かし、活躍したい市民で結成された「ちえりあ学習ボランティア」による企画講座を

12 講座実施し、251 名が受講した。講座の企画・運営の中で、学習成果を生かしたい人とそれを求める人を結びつけるコーディネーター役の人材育成の場を創出した。

20 身近な地域で学びを深められる環境の整備 【重点施策】 9 事業

〔事業例〕 図書・情報館の運営

起業、経営、医療・健康などの市民が抱える仕事や暮らしの課題を情報面から支援し、利用者の調べものや交流を促進する空間として、図書・情報館を運営している。セミナーの開催や相談窓口の開設もあり、890,929 人(1日あたり約3,000人)が来館した。多くの市民が学びを深められる場となっている。

〔事業例〕 「図書館との連携を核とした新たな生涯学習推進体制の方針」の推進

生涯学習センターと、生涯学習の「知の拠点」である図書館との連携を核とした生涯学習の全市展開の推進に取り組むこととし、さっぽろ市民カレッジでは図書館連携講座を10講座開催するなど、市民が身近な地域で学びを深められる機会を提供した。

21 時代の変化に対応した生涯学習関連施設の運営、機能強化 4 事業

〔事業例〕 オリンピック・パラリンピック教育推進事業

オリンピックミュージアムをオリンピック・パラリンピック教育の拠点として活用し、8,221名の児童が、オリンピック・パラリンピアン等の講話やオリンピック・パラリンピック種目の体験を通じて、オリンピック・パラリンピックに関する知識や選手の体験・エピソード、大会を支える仕組み等について学習した。スポーツの意義や価値等に触れる機会の充実に取り組んだ。

22 多様な主体が連携した学びの場づくり 4 事業

〔事業例〕 幼保小連携なかよしキャンプ

翌年度に小学校に入学する幼児と小学5年生の児童が、一緒に自然体験活動を行うことで、小学生になることへの憧れと期待感や、年少者への思いやりと上級生としての責任感を育むことを目的に、市内の公園や学校、社会教育施設などの地域資源を活用した自然体験活動を実施し、157人(小学生37人、幼児120人)が参加した。